

# 水遊びと安全

4歳以下では家庭内の浴槽で溺れる事故が多く、5歳以上になると屋外での溺水事故が増えます。子どもが溺れる事故を経験した保護者の8割以上が「悲鳴や助けを求める声が聞こえなかった」とされています。溺れる時、子どもは声を出さず、静かに沈むのです。プールや海、川といった多くのフィールドへ出ていく学童期以降の子どもは保護者の目の届かない瞬間も増えてしまうため、溺れた時の発見が遅れる可能性があります。

## 応急処置のポイント

**まず** 水中から引き上げ安全な場所で寝かせましょう。



**反応がない**

すぐに救急車をよび、**胸骨圧迫**を行いましょう



**嘔吐する**

体ごと横に向けて、喉に吐物が詰まらないようにしましょう

**反応がある**

衣服の交換や水の拭き取りを行い、保温しましょう



溺れた場合は、大丈夫そうに見えても救急外来を受診した方が良いです

## 家庭での事故(傷害)予防のポイント

川や海で遊ぶときは必ずライフジャケットを着用しましょう



事故の起こりやすい地形(水流)や天候は可能な限り事前に把握しましょう



5歳までは必ず泳いでいる子どもに手の届く範囲にいきましょう



適切な人数の監視員が配置されていないプールの使用は控えましょう



年齢に見合った水泳技術の習得を目指しましょう



## 実際にあった事例

公共財団法人 河川財団 水難事故 2021

家族4名で川遊び中に子ども1名が流された。子どもはライフジャケットを着用しており近くにいた人に助けられ、助けようとして流された親はライフジャケット未着用で死亡した。

海上保安庁 海の安全推進部 海で安全に楽しむために平成29年度版

家族8名のうち子ども3名が波打ち際で遊んでいたところ、高い波を受け沖に流された。父親と付近で釣りをしていた男性が救助に向かった男性が同様に沖に流され5名全員が死亡した。

主治医からのひとこと